



平成25年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社エイテイング
コード番号 3785 URL <http://www.8ing.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤澤 知徳

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長兼経営企画室長 (氏名) 津村 正幸

TEL 03-5753-8178

四半期報告書提出予定日 平成25年5月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第2四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第2四半期	1,198	25.1	280	878.9	287	905.9	215	—
24年9月期第2四半期	957	△15.0	28	△81.4	28	△81.6	△280	—

(注) 包括利益 25年9月期第2四半期 215百万円 (—%) 24年9月期第2四半期 △280百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第2四半期	41.52	—
24年9月期第2四半期	△53.97	—

(注) 平成24年10月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。
1株当たり四半期純利益の金額は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年9月期第2四半期	2,211	1,611	72.9
24年9月期	1,677	1,447	86.3

(参考) 自己資本 25年9月期第2四半期 1,611百万円 24年9月期 1,447百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	0.00	—	1,000.00	1,000.00
25年9月期	—	0.00	—	—	—
25年9月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成24年10月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。
平成25年9月期配当予想は、当該株式分割後の金額であります。
仮に当該株式分割前に換算すると中間配当金は1株当たり0円、期末配当金は1株当たり1,000円、年間合計では1,000円となります。

3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,638	26.7	301	34.6	304	34.1	229	—	44.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期2Q	5,523,800 株	24年9月期	5,523,800 株
② 期末自己株式数	25年9月期2Q	323,000 株	24年9月期	323,000 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期2Q	5,200,800 株	24年9月期2Q	5,200,800 株

(注)平成24年10月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。
発行済株式数は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続をしています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)2ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	1
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	1
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 継続企業の前提に関する注記	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(6) セグメント情報等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるゲーム業界は、人気の高い有力タイトルが市場を牽引するとともに、新型ゲーム機の発表や既存ゲーム機の値下げによるソフトの需要喚起などにより、市場は活況を呈しました。

家庭用ゲームソフト市場におきましては、2012年度の国内ゲーム市場規模（ソフト・ハード含む）が約4,479億円と前年比1.2%の増加となり（株式会社エンターブレイン調べ）、今後の新型ゲーム機の発売等と併せて、市場の需要拡大が期待されます。

一方、ソーシャルゲーム市場におきましては、一部の有力タイトルが人気を博するとともに、新たなプラットフォームを用いたゲームのダウンロード数が国内外で大きく伸びるなど、市場に好影響を与える要因が相次いでおり引き続き盛況が期待されます。

このような環境の中、当社グループとしましては、ゲームコンテンツを通じて「感動」と「喜び」をユーザーへ提供すべく、プラットフォームやジャンルを問わない開発・運用運営体制の構築を図っております。

家庭用ゲームソフト開発においては、マルチプラットフォーム対応の体制を整えるとともに、ミドルウェアの開発・利用やゲーム制作ツールを用いることで開発の効率化を行っております。

また、ソーシャルゲーム開発においては、従来の受託開発に加えて開発したコンテンツの運用運営業務まで視野に入れ、初期開発から運用運営までをトータルパッケージとして提供できる体制の構築を図っております。そのために、こうした事業環境の変化に柔軟に対応出来るよう、社内リソースの再配分や社内人員の再教育などを進めております。

家庭向けゲームソフト開発におきましては、PS3・XBOX360・Wii U向けソフト開発を中心に行っております。引き続き、複数の大型案件や追加受注案件の開発を並行して進めており、若干の遅れはあるものの概ね順調に開発は進んでおり、現状では大幅なスケジュール変更の必要性はないと見込んでおります。

一方、ソーシャルゲーム開発におきましては、主にスマートフォン向けのコンテンツ開発を中心に行っておりますが、開発後の運用運営業務についても併せて手掛けております。コンテンツの開発については有力タイトルの開発を引き続き進めると共に、運用運営業務については業務の比重を高めるべく、手掛けるタイトルの拡大を目指しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、売上高は1,198,091千円（前年同四半期は売上高957,635千円）、営業利益は280,830千円（前年同四半期は営業利益28,687千円）、経常利益は287,487千円（前年同四半期は経常利益28,580千円）、四半期純利益は215,983千円（前年同四半期は四半期純損失280,728千円）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、当社グループの事業は単一セグメントに変更したため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 財政状態

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,767,298千円となり、前連結会計年度末に比べ463,601千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が334,677千円増加したことによるものであります。固定資産は443,825千円となり、前連結会計年度末に比べ70,166千円増加いたしました。この結果、総資産は2,211,123千円となり、前連結会計年度末に比べ533,767千円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は597,689千円となり、前連結会計年度末に比べ368,092千円増加いたしました。これは主に前受金が312,846千円増加したことによるものであります。固定負債は1,699千円となり、前連結会計年度末に比べ1,699千円増加いたしました。

この結果、負債合計は599,389千円となり、前連結会計年度末に比べ369,792千円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,611,734千円となり、前連結会計年度末に比べ163,975千円増加いたしました。これは主に四半期純利益215,983千円及び剰余金の配当52,008千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は72.9%（前連結会計年度末は86.3%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて334,677千円増加し、1,412,843千円となりました。

また、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果取得した資金は、568,888千円（前年同四半期は128,169千円の支出）となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益280,969千円、前受金の増加額312,846千円、主な減少要因は、売上債権の増加額111,358千円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、182,144千円（前年同四半期は45,956千円の支出）となりました。主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出65,980千円、無形固定資産の取得による支出63,343千円等であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、52,066千円（前年同四半期は119,467千円の支出）となりました。減少要因は配当金の支払額52,066千円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想は、「3. 平成25年9月期の連結業績予想（平成23年10月1日～平成24年9月30日）」に記載の業績数値となっており、平成24年11月9日に公表した連結業績予想から変更ありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,078,166	1,412,843
受取手形及び売掛金	123,994	235,352
仕掛品	1,806	—
その他	99,730	119,103
流動資産合計	1,303,697	1,767,298
固定資産		
有形固定資産	28,422	86,875
無形固定資産	229,670	264,582
投資その他の資産	115,566	92,366
固定資産合計	373,659	443,825
資産合計	1,677,356	2,211,123
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,090	25,222
未払法人税等	—	68,202
前受金	11,566	324,413
賞与引当金	—	38,129
受注損失引当金	—	1,555
本社移転費用引当金	31,000	—
資産除去債務	4,424	—
その他	162,516	140,165
流動負債合計	229,597	597,689
固定負債		
資産除去債務	—	1,699
固定負債合計	—	1,699
負債合計	229,597	599,389
純資産の部		
株主資本		
資本金	210,351	210,351
資本剰余金	271,601	271,601
利益剰余金	1,157,819	1,321,795
自己株式	△192,013	△192,013
株主資本合計	1,447,758	1,611,734
純資産合計	1,447,758	1,611,734
負債純資産合計	1,677,356	2,211,123

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
売上高	957,635	1,198,091
売上原価	660,645	709,526
売上総利益	296,989	488,564
販売費及び一般管理費	268,302	207,734
営業利益	28,687	280,830
営業外収益		
受取利息	1	0
還付加算金	142	1,734
本社移転費用引当金戻入額	—	4,735
その他	209	187
営業外収益合計	353	6,657
営業外費用		
支払利息	459	—
営業外費用合計	459	—
経常利益	28,580	287,487
特別損失		
減損損失	288,811	—
本社移転費用	—	6,518
特別損失合計	288,811	6,518
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△260,230	280,969
法人税等	20,497	64,986
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△280,728	215,983
四半期包括利益	△280,728	215,983
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△280,728	215,983

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△260,230	280,969
減価償却費	27,228	37,154
賞与引当金の増減額(△は減少)	38,224	38,129
減損損失	288,811	—
本社移転費用	—	6,518
受取利息及び受取配当金	△1	0
支払利息	459	—
受注損失引当金の増減額(△は減少)	1,729	1,555
本社移転費用引当金の増減額(△は減少)	—	△31,000
売上債権の増減額(△は増加)	△18,865	△111,358
たな卸資産の増減額(△は増加)	△111,409	1,806
仕入債務の増減額(△は減少)	21,440	5,132
前受金の増減額(△は減少)	12,227	312,846
未払金の増減額(△は減少)	△3,926	24,711
未収消費税等の増減額(△は増加)	10,587	4,943
未払消費税等の増減額(△は減少)	△9,661	△52,641
その他	△18,807	△11,806
小計	△22,193	506,960
利息及び配当金の受取額	1	0
利息の支払額	△459	—
法人税等の支払額	△105,517	—
法人税等の還付額	—	61,927
営業活動によるキャッシュ・フロー	△128,169	568,888
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,214	△65,980
無形固定資産の取得による支出	△38,527	△63,343
敷金及び保証金の差入による支出	△510	△52,820
その他	296	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△45,956	△182,144
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△67,440	—
配当金の支払額	△52,027	△52,066
財務活動によるキャッシュ・フロー	△119,467	△52,066
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△293,593	334,677
現金及び現金同等物の期首残高	1,052,792	1,078,166
現金及び現金同等物の四半期末残高	759,199	1,412,843

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他	合計
	ゲームソフト 開発事業	モバイル コンテンツ 開発事業	ネットワーク コンテンツ 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	663,483	294,152	—	957,635	—	957,635
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	663,483	294,152	—	957,635	—	957,635
セグメント利益又は損失(△)	270,662	△46,926	—	223,736	—	223,736

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	223,736
「その他」の区分の利益	—
全社費用(注)	△195,048
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	28,687

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

ネットワークコンテンツ開発事業において、コンテンツ仮勘定の減損損失の計上をいたしました。
なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては288,811千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)

当社グループは「ゲームコンテンツ開発事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社グループは、従来「ゲームソフト開発事業」、「モバイルコンテンツ開発事業」、「ネットワークコンテンツ開発事業」の3事業を報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間より「ゲームコンテンツ開発事業」の単一セグメントに変更しております。

当社グループでは、主に提供するコンテンツのハードウェアを分類の基準としたセグメント毎に開発体制を構築し、各種ゲームコンテンツの開発を行ってまいりました。その一方で、ゲームコンテンツ市場においてはネットワーク化やマルチプラットフォーム化が進展し、ハードウェア毎の開発環境が類似する傾向となりました。こうした市場の変化に対応するため、当社は開発組織の再構築を図り従来の事業セグメントを融合させ、当社の技術優位性を活かしたコンテンツ開発を推進しております。

このような状況を踏まえ、当社グループの組織構造の変更も含む事業展開、経営資源の配分、経営管理体制の実態等の観点から事業セグメントについて再考した結果、当社グループの事業を一体として捉えることが合理的であり、事業セグメントは単一セグメントが適切であると判断したことによるものであります。

この変更により、当社グループは単一セグメントとなることから、当第2四半期連結累計期間のセグメント記載を省略しております。